

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

May 2020 vol.73

May						
S	M	T	W	T	F	S
						1 2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

◆ ますみだじんじゃ 真清田神社

所在地：一宮市真清田

交通：名鉄本線「名鉄一宮」駅北東約600m

一宮市の真清田神社は、古代に尾張地方を治めた尾張氏の祭祀を起源とすると言われ、平安時代には国の大社と認められ、人々の崇敬を集めてきました。江戸時代には徳川家の庇護を受け社勢を拡大し、明治維新後には近代社格制度の国幣小社に、大正に入ると国幣中社に格付けされ、皇室国家から厚待遇を受けるようになりました。国司が国の神社を参拝して回るときに最初に訪れる神社を「一の宮」と呼び、真清田神社が尾張の国の「一の宮」であったことから、門前町であった現在の一宮市が「いちのみや」と呼ばれるようになりました。本殿の一部には、伊勢神宮から下賜を受けた古材が使用されており、渡殿とともに国の登録有形文化財にも指定されています。

歴史ある真清田神社は、これまで数々の地震を経験していますが、とりわけ被害が大きかったのが、天正13（1586）年の天正地震と明治24（1891）年の濃尾地震です。

天正地震は天正13年11月29日に発生した内陸活断層型の地震で、被害は尾張、美濃をはじめ中部・北陸・近畿の広い範囲に及び、太平洋側の三河湾のみならず、日本海側の若狭湾でも津波の記録が残されていて、非常に規模の大きな地震であったと言われています。この天正地震における真清田神社の被害は甚大なもので、真清田神社史によれば、「本宮・楼門・廻廊その他殿堂悉く転覆、傾倒」との記録が残され、激震域（震度7相当）の地点であったとされています。

濃尾地震は明治24年10月28日、岐阜県本巣市の根尾谷断層を震源として発生した地震で、現在の一宮市域（当時は中島郡、葉栗郡、丹羽郡）では、人口約10万人のうち952名の方が犠牲となり、総戸数約2万戸のうち、全壊家屋は1万2千戸にのぼりました。真清田神社の被害も大きく、真清田神社史には、「本社も町内の家屋も大半（千数百戸）が倒壊してしまった。幸ひ修理を加えてあった神殿や楼門は大破しなかったが、瓦葺の拝殿や勅使殿などは壊滅状態に陥った」との記録があります。

一宮市内では、東海北陸自動車道建設に伴う遺跡調査時などに、濃尾地震をはじめ過去の地震の際に発生したとされる砂脈や噴砂跡が数多く確認されており、地震により広い範囲で液状化が発生していたことがうかがえます。また、濃尾地震については、宝光寺の「震災記念碑」や蓮光寺の「震災死亡碑」（いずれも裏面参照）など、市内各地に慰霊碑が残されているほか、市内の神社や寺院において、相当多くの被害の記録が残されています。

愛知県発行の「歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイド（尾張編）」（<https://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/pdf.html>）では、砂脈や噴砂跡が確認された場所や、被害の記録の残る神社や寺院の場所が地図にプロットされており、過去の地震における被害の広がりを実感することができます。



地震後の真清田神社
（濃尾大震災寫真帖より）



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたら、たとえ、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆真清田神社の周辺には…

● 蓮光寺 (震災死亡碑)

所在地：一宮市三条郷内

交通：名鉄尾西線「二子」駅北 約 2km

蓮光寺では、明治 24 (1891) 年濃尾地震の際に堂宇が倒壊し、明治 39 (1906) 年 7 月に再建されました。境内には、濃尾地震の際に旧三条村で亡くなられた方を追悼するための「震災死亡碑」があります。

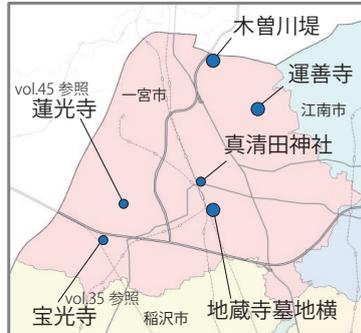


● 宝光寺 (震災記念碑)

所在地：一宮市萩原町

交通：名鉄尾西線「萩原」駅北西 約 800m

明治 24 (1891) 年濃尾地震の際に、当時の萩原村では 60 人以上の死者が出て、約 8 割の建物が全壊・半壊しています。碑の内容からすると、この碑は、当地でも激震があったことを後世に伝えるために建てられたものと思われます。



● 地蔵寺墓地横 (震災亡霊菩薩塔)

所在地：一宮市本町通 交通：名鉄本線「名鉄一宮」駅南東 約 700m

明治 24 (1891) 年濃尾地震の際に、地蔵寺の建物はことごとく倒壊したとされています。また、寺の墓地横には濃尾地震による死者を供養するため建てられた「震災亡霊菩薩塔」があります。



◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>)をご覧ください。

★ 杜の宮市

杜の宮市は真清田神社の門前を中心に、2001 年から年に 1 回、5 月に開催される文化のまつりで、全国から集うアーティストがアートやクラフト作品を展示販売する「138 のモノづくり」、音楽や大道芸が楽しめる「なまおとライブ」、オリジナルで安心安全な食べ物、飲み物が味わえる「もりもりフードコート」など、一日中楽しめるイベントとなっています。



Aichi Now HP より

会場は、真清田神社から門前町の本町商店街にわたるエリアで、2020 年からは、名鉄一宮駅東口から商店街に至る「銀座通り」が歩行者天国となり、駅からまち、商店街を經由して神社へと会場が繋がる予定でした。(2020 年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

あいちの農産物

大根は、古くから日本の食卓に欠かせない野菜で、消化を助ける酵素など、体に良い成分を多く含んでいます。日本には稲作とともに中国から伝わったとされ、世界一多品種で高品質です。別名はスズシロと呼ばれ、春の七草のひとつにもなっています。



愛知県園芸農産課 HP より

愛知県で出荷の多い時期は 11 月～12 月頃と 4 月～5 月頃で、愛知の伝統野菜に「方領」「宮重」「守口」の 3 品種があります。

● ブレイクタイム ●

♪ 萬葉公園

真清田神社の南西、名鉄尾西線萩原駅から徒歩 15 分の萬葉公園は、万葉集の題材が多い萩が群生していたことにちなんで命名された公園で、園内には数多くの歌碑や歌詞版が設置されています。『万葉集』に収められている萩の歌がこの地で詠まれたことにちなんだ、とも言われています。

毎年 2 月下旬から 3 月にかけて、梅や河津桜が見頃を迎えます。また、徒歩 5 分の高松分園では、6 月上旬に花しょうぶ祭りが開催され、7 月にかけて、ホタルも観賞することができます。



一宮市観光協会 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をぜひご覧ください。

(発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 2020 年 5 月)